

Power Reserve

2023年度版

即応予備自衛官
田中士長

即応予備自衛官
山田2曹

働きながら
この国のために。

予備自衛官
荻田3尉

予備自衛官
高橋士長

まだ、

挑戦できる。

はじめに

「パワーリザーブ」は、予備自衛官等教養資料として昭和四十五年に創刊され、「予備自衛官のしおり」の時代を加え、今年度で五十四号となります。本誌が全国の予備自衛官等の皆様の団結、退職予定隊員の予備自衛官等志願への一助となるよう、また、ご家族や雇用企業主の皆様の制度理解への一助になれるよう、共感できる体験談や関心を持てる記事を掲載しておりますのでご一読いただければ幸いです。

予備自衛官等制度の概要	04
-------------	----

〈特集〉

令和四年度 予備自衛官中央訓練	06
-----------------	----

〈施策の広場〉

優秀隊員招待行事	19
防衛大臣感謝状受賞企業	20
予備自衛官等協力事業所表示制度	21
女性活躍	22

〈招集（教育）訓練の広場〉

予備自衛官招集訓練	27
即応予備自衛官招集訓練	29
予備自衛官補招集教育訓練	29
各部隊等の訓練紹介	30

〈仲間の広場〉

予備自衛官の仲間から	33
即応予備自衛官の仲間から	36
予備自衛官補の仲間から	38
雇用企業の皆様から	39
ご家族の皆様から	40
常備自衛官から	41
地方協力本部担当者から	42
一佐予備自衛官から	44
予備自衛官等福祉支援制度のご案内	45
読者プレゼント	46

予備自衛官等制度の概要

3つの予備自衛官等制度

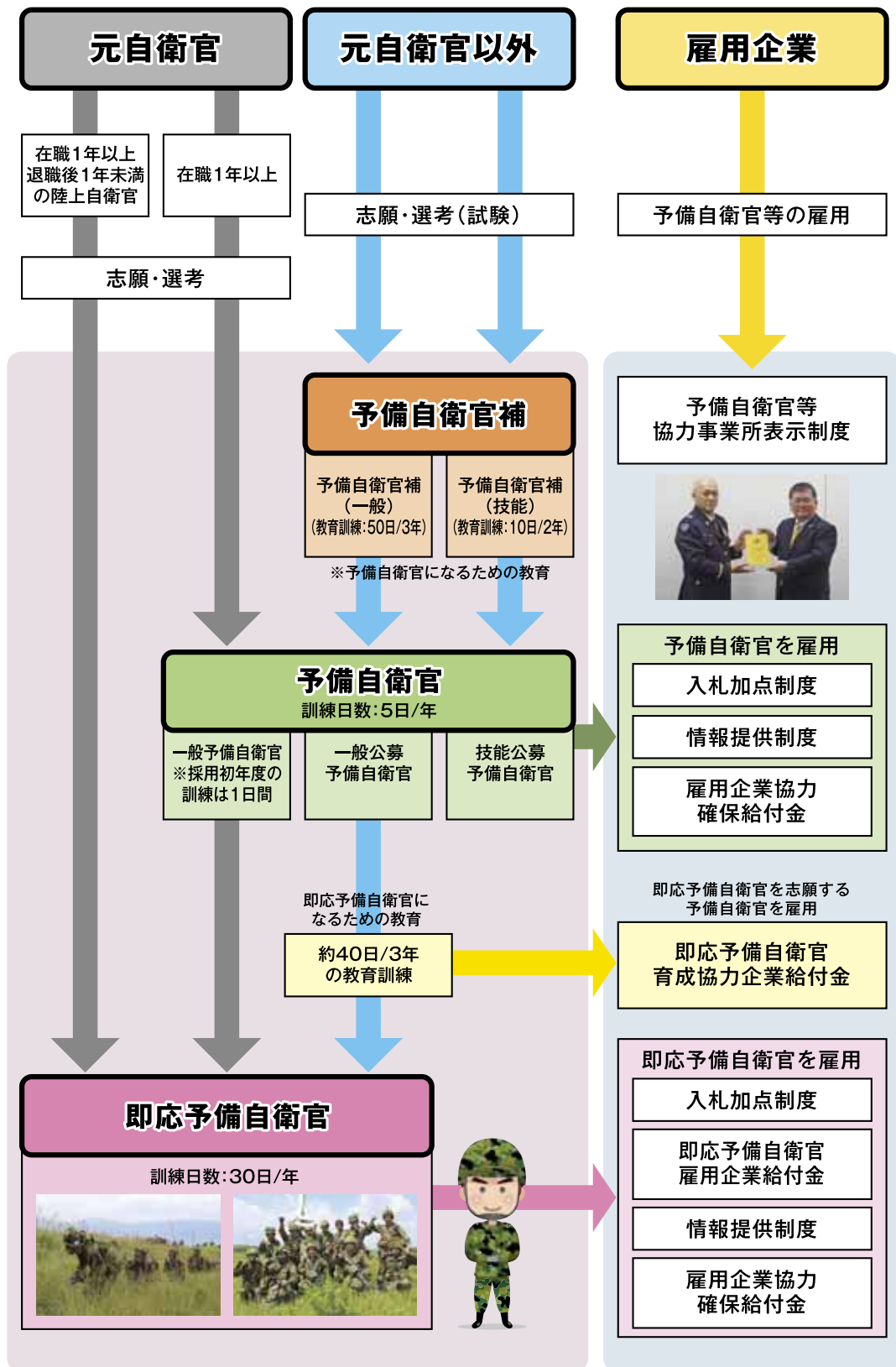
国家の緊急事態に当たっては、大きな防衛力が必要です。普段は、必要最小限の防衛力で対応し、いざという時に急速に集める事ができる予備の防衛力が必要となります。諸外国でも、いざという時に急速に戦力を増強するシステムを取り入れています。

わが国においては、これに相当するものとして、予備自衛官、即応予備自衛官及び予備自衛官補の3制度を設けています。

	予備自衛官 	即応予備自衛官 	予備自衛官補 
導入年度	昭和29年度	平成9年度	平成13年度
有事の際の役割	第一線部隊が出動した時に、駐屯地の警備や後方支援等の任務に就きます。	第一線部隊等の一員として、現職自衛官とともに任務に就きます。	
招集区分	●防衛招集 ●国民保護等招集 ●災害招集 ●訓練招集	●防衛招集 ●国民保護等招集 ●治安招集 ●災害等招集 ●訓練招集	●教育訓練招集
平時における(教育)訓練日数	・5日間／年 (3日間と2日間に分割可能です) ※方面総監が特に必要と認める場合、6日間以上の訓練に参加可能	・30日(2日間～4日間程度の訓練を複数回)／年	・予備自衛官補(一般) 50日間／3年以内 ・予備自衛官補(技能) 10日間／2年以内 ※1回5日間
員数	47,900人 [陸自:46,000人 海自:1,100人 空自:800人]	7,981人 (陸自のみ)	4,621人 [陸自:4,600人 海自:21人]
処遇等	●予備自衛官手当 4,000円／月 ●訓練招集手当 8,100円／日 ※公募予備自衛官から即応予備自衛官任用への基本特技取得のための訓練招集手当は日額:8,300円	●即応予備自衛官手当 16,000円／月 ●訓練招集手当 14,200円～10,400円／日 ●勤続報奨金 120,000円／1任期(3年)	●教育訓練招集手当 8,800円／日 ※令和2年度以降の高卒程度の新試験合格者が対象となります。 ※令和元年度以前の試験合格者は7,900円／日となります。
雇用企業給付金		42,500円／月・人 (年額:510,000円)	
近年の予備自衛官即応予備自衛官の災害派遣招集実績	●令和元年東日本台風(台風19号)(R1) ●新型コロナウイルスの感染拡大防止(R2) ●令和2年(2020年)7月豪雨(R2)	●平成30年7月豪雨(H30) ●北海道胆振東部地震(H30) ●令和元年東日本台風(台風19号)(R1) ●令和2年(2020年)7月豪雨(R2)	
詳しくはこちら予備自HP			

※手当・給付金は、課税対象になります。

予備自衛官等の任用までの流れ



特集

令和四年度 予備自衛官中央訓練

令和四年度
予備自衛官中央訓練
三年ぶりに実施！

令和四年七月二十二日から二十六日の

間、令和四年度予備自衛官中央訓練をコロナ禍の中止により、令和元年以来三年ぶりに実施しました。本訓練は、予備自衛官の魅力化施策の環として、知識及び技能の向上を図ることを目的とし、東部方面総監部の支援を受け、全国より各地方協力本部長の推薦を受けた七十三名が朝霞市ヶ谷駐屯地に招集され、通常の訓練では経験できない訓練等に参加しました。

二十二日は着隊式、二十三日には人命救助セット、応急救護等を使用した機能別訓練を実施し、二十四日には朝霞訓練場において、大規模震災を想定した総合訓練を実施しました。

総合訓練については、予備自衛官の災害招集を想定した常備自衛官と連携した



緊張感ある訓練となり、参加者からは、「自衛隊に装備されている災害用の装備品を初めて取扱うことができた」、「通常の五日間訓練では、体験できない訓練により、自己の職務を実感することができた等の声もあり、大変有意義な訓練となりました。

二十五日は、市ヶ谷駐屯地の防衛省講堂において、陸上幕僚長訓示、永年勤続表彰者への表彰が実施され、参加者は、陸上幕僚長より直接訓示を聞くことができ、「国防の重要性を改めて理解した」、「予備自衛官の幅広い活躍等の必要性について再認識した」等の意見も多く、貴重な機会となりました。

中央訓練でしか経験のできない有意義な訓練を終え、参加者は訓練を共にした仲間と別れ、名残惜しそうに帰路につきました。



予備自衛官中央訓練に 参加して得られた達成感 他では経験できない！



自衛隊
東京地方協力本部
中隊長
予備二等陸佐
大桃 文知

南海トラフや首都直下等の地震災害が高い確率で起こりえると言われ、また地球温暖化に起因した気象災害が各地で頻回に経験されている昨今、災害対応は喫緊の課題である。

災害派遣は、予備自にとって最も招集される可能性が高い任務であり、令和四年度の予備自中央訓練は、災害派遣をテーマに実施された。令和元年の台風災害の際、陸上総隊に増強幕僚として執務した経験に加えて、今回中隊長として現場で指揮を執った経験は、まさに人生の宝になった。今回、訓練の概要に触れ、得られた経験を共有した

い。

総合演習では現職の支援を受けながら、災害派遣急性期における一連の行動を、予備自部隊が主力となり完結させる事が求められた。防ぎえる災害死及び災害関連死を防ぐことを主たる目的とし、強固なる団結・相互協力・安全確保を中隊長要望事項として、総勢七十三名をもって事に臨んだ。

部隊完結式ののち、本官を含む指揮調整部門が先発隊として輸送ヘリに乗り込んで被災地域に進出して指揮所運営を引き継ぎ、後発主力を迎え入れて要救助者の人命救助・避難者への喫食支援ミッションを開始した。

部隊は二方面から被災地へ展開し、被災状況を確認し、安全を確保しつつ要救助者の発見に努め、人命救助セットを駆使して要救助者を救出した。持てる搬送手段を使用して、設営した救護所に受け入れ、重症度と緊急度を評価し、安定化処置を施して輸送ヘリで後送し、任務を

完遂した。

人命救助を共通目標として、衛生職種に限らず全ての職種の方々の連携と個々の力を結集させた総合力のすばらしさを肌で感ずることが出来た。ミッションを達成し、コロナ感染に留意しつつ距離を確保して車座になり、喫食班が準備してくれたカレーの味は格別であった。文字通り同じ釜の飯を食して、団結力が一段と高まったのは言うまでもない。



受け入れ部隊の皆様に感謝しつつ、これからも予備自衛官としての誇りを胸に、気力と体力の続く限り国に尽くしていきたい。



受付・被服交付



自衛隊
新潟地方協力本部
予備三等陸佐
吉川 裕子

今回の中央訓練では災害派遣が想定され、例年よりも衛生の予備自が多く招集された。私は自分の被災とボランティアの経験から、災害時に薬剤師に何ができるかを考え続けてきた。阪神大震災の後、各業界でボランティア派遣が検討され、二〇〇四年の新潟県中越地震で初めて薬剤師会がボランティアを組織した。その時に参加した私は、震度六の余震に遭って二次災害の危険を感じ、訓練されていない人だけで装備も持たずに危険な被災地に向かうのは、やめた方がいいと思った。また、避難所でも薬剤師だけでは処方薬を出せず、できることは市販薬の提供などに限られた。二〇〇七年の新潟県中越沖地震では、原発がある地元の柏崎市が壊滅的被害を受け、自衛隊の生活支

援・復興支援に救われた。いつか恩返しがしたいと思った。東日本大震災では、医師・看護師のチームに参加して宮城県石巻市で活動し、可能なら薬剤師は他の職種の医療従事者と連携した方が、現場で役に立てると思った。

そのような経緯があり、今回の訓練内容は自分に合っていたが、主に調剤薬局での勤務経験しかなく、救急の薬、特に注射薬のような自衛隊でよく使用されるような薬の知識不足を痛感した。訓練では周囲の看護師にかなり助けられ、経験豊富で頼もしい看護師の人たちを予備自として見習わねばと思った。

総合的な災害派遣の演習は、複数の離れた場所が多様な状況が同時進行し、別の場所の様子はその時はわからず、語学の人を通してしていたとか、入浴支援のお風呂に入った人がいたとか、後から聞いて驚いた。訓練を準備した現職の隊員は大変だったと思うが、そのおかげで有

事にそれぞれの予備自がそれぞれの持ち場で働くことがイメージできた。

今回の訓練で医師は中隊長一名で本部の任務と医師の任務が重なり、看護師への指示や薬の処方を含めた診察・治療に専念できない事態が起きたが、それは実際の招集でも起こり得る。平時の病院内とは異なる緊急時に、医師の指示を待たずに看護師が人命救助のために行える医療行為を予め検討することも必要ではないかと思った。あるいは、現行法の下でも緊急時の処置であれば医療従事者の現職・予備自衛官が法的責任を免れるのか、法務の予備自なども交えて多角的な視点で話し合う機会があればいいと思う。

私は中央訓練までは予備自であることを周囲に隠していたが、中央訓練で意識が変わり、周囲の薬剤師に予備自であることを伝え始めた。予備自を知らない人もいる。予備自になる前の私もそうだったが、そもそも一般

の人は自衛隊がどういうところで、どういう人たちが一生懸命働いているのかをあまり知らない。不本意だが、現在の国際情勢では戦力なしに平和は守れないと思う。しかし戦力だけでは国は守れないと思う。自衛隊に戦争をさせないために、武力行使による自国民・他国民の犠牲者を減らすために、任務のためにも減らすために、より多くの人が無理のない形で自衛隊と関わればいいと思う。書き切れないが、訓練の一つ一つを通して得難い体験ができ、中央訓練に参加できたことに感謝している。

着 隊 式



機能別訓練



本訓練の特性は、当初、機能別訓練から新島における大規模震災発災により、災害派遣活動を実施している先遣普通科中隊と予備自衛官中隊が任務交代する想定との総合訓練で、実際に朝霞駐屯地北グラウンドから朝霞訓練場（新島の想定）まで輸送ヘリに搭乗して移動しました。

普段参加している招集訓練とは違い、技能公募予備自衛官の方が多数参加しているのが印象的でした。連日猛暑の中、北海道からの参加で体調管理が心配でしたが、最後まで体調を崩すことなく訓練に参加することができました。

コロナ禍で訓練の実施が危ぶまれるところ中央訓練実施という連絡をいただき、しっかりと感染予防を行ない訓練に参加しました。



自衛隊
旭川地方協力本部
予備一等陸尉
清田 哲朗

遠くに東京スカイツリーを眺めつつ、朝霞訓練場の上空を三回ほど旋回したのですが、期待のとおり、陸上自衛隊最大のヘリコプターだけあって、非常に安定したフライトでした。

現役時には、東日本大震災及び熊本地震等の災害派遣を経験しているので、公募予備自衛官の方々及びその他の参加者に対して見本となれるよう心掛けて行動することができたと思います。

色々と制約の多い訓練でしたが、早くコロナが収束し、制限のない訓練ができることを願っています。最後に訓練参加に際し尽力してくださった関係各位に御礼申し上げます。



自衛隊
秋田地方協力本部
予備三等陸尉
大黒 一夫

今回、初めて予備自衛官中央訓練に参加しました。本訓練は七月二十二日（金）から二十六日（火）までの間実施され、全国から元自衛官は勿論、弁護士、医師、歯科医師、看護師等様々な職種の方が参加されており、普段の五日間訓練には経験できない貴重な経験をさせていただきました。

訓練で輸送ヘリに搭乗した際には、現役時代に第一空挺団に所属し、落下傘降下をしていたので、昔を思い出し気持ちが高まりました。

現在、秋田県の八峰町役場で勤務しており、春から秋は草刈重機を、冬は除雪車を運転しています。人と接することが得意ですので、今回の訓練に参加し、予備自衛官として災害派遣等の現場においても人の役に立ちた

いと強く感じました。
最後に、陸上幕僚長のお言葉を直接拝聴することができ、強く感銘を受けました。志を新たに、任期満了まで専心訓練に励み、国防の一端を担わせていただく所存であります。

総合訓練 ①



総合訓練 ②



自衛隊
群馬地方協力本部
予備二等陸曹
中島智恵子

七月二十二日から二十六日の間、令和四年度予備自衛官中央訓練に参加しました。

全国から七十三名が朝霞駐屯地に招集されました。

訓練中は、猛暑とコロナ禍の制約の中、細心の注意を払いつつ皆で個々の能力を高め、協同精神を学びました。

特に今回は、医師、臨床心理士、薬剤師、看護師等多くの衛生職種が参加し、医療班一丸となつて取り組んだ大地震を想定した災害対処訓練は、災害医療の実践として、とても有効でした。

輸送ヘリから降りると私は病棟看護師となり、次々と瓦礫の中から救出された被災者が搬送され、医官指示のもと点滴等処置が開始されました。

状況は推移し、被害状況も把握しきれなくなりました。

受け入れた患者情報を皆でホワイトボードに記入しても集約・分析もできないし、足りない衛生資材等がでてきました。

実際の災害では人々のパニックの中、状況を把握しそれを共有、上官に報告伝達するための工夫が必要で患者情報、不足衛生資材揭示等自分は今、何をすべきかを判断してもらうのか意識して工夫していこうと感じました。

そして市ヶ谷駐屯地で陸幕長訓示を直接聞くことができ、今後も予備自衛官として成長できるように万全の準備で訓練に取り組んで技能向上に努めます。





自衛隊
静岡地方協力本部
予備三等陸曹
杉村 綾亮

コロナ禍によって中止、見送りととなっていた予備自衛官中央訓練が、この度ようやく実施の運びとなった。

静岡地本から参加を要請された私は、全国から結集する優秀な予備自衛官の面々との出会いに期待を膨らませつつ、雨が降りしきる朝霞駐屯地の営門をくぐった。

第一普通科連隊長の精神教育を皮切りに始まった五日間の訓練生活は、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止対策が徹底され、何かと制限が多い環境下であった点は残念だったものの、慣れ親しんだ地元静岡での予備自衛官招集訓練とは様々な意味で一味違うメンバーと雰囲気の中、普段はなかなか触れる機会のない装備品や輸送ヘリを活用した災害派遣訓練等、予備自衛官として、

これ以上は望みようもないような充実した訓練プログラムに取り組めたことは、今後も予備自衛官として生きていく上で活かせる新たな知見と貴重な経験を得ることができ、私にとってかけがえのない宝となった。

最後に、私に予備自衛官中央訓練に参加する機会を与えてくださった静岡地方協力本部、素晴らしい訓練生活を過ごさせてくださった訓練担任部隊、陰に日向に訓練をサポートしてくださった陸幕はじめ本訓練に関係する全ての皆さまに深く御礼を申し上げ、筆をおこうと思う。

永年勤続表彰



陸 上 幕 僚 長 訓 示



私は普段、自営業でデザイナーをしています。友人の薦めで興味が湧き、何気なく入隊。予備自補一般を経て、予備自衛官も早五年。

この度ご縁を頂戴し、予備自補の頃から憧れていた中央訓練へ参加させて頂きました。災害招集を想定し、被災者への食糧配布、チェンソー等の機材操作など実務に近い内容と感じました。特に傷病者役の大柄な男性を運搬した際、階段の昇降で担架がうまく持ち上がらず、苦戦しましたが仲間にも助けられ、やり遂げることができました。仲間は有難いと感じたのと同時に、更に自らの鍛錬が必要だと感じました。他にも陸幕長訓示、市ヶ谷訪問や輸送ヘリ搭乗、意識の高い全国の予備自衛官と意見を交わす場を頂き、新しい発



自衛隊
岐阜地方協力本部
予備陸士長
池田 典子



見や深い学びを得られました。

コロナ禍の中、三年ぶりに中央訓練を行なっていたいただいた部隊の方、地本の方、そして家族に感謝しています。本当に有難うございました。



自衛隊
高知地方協力本部
予備二等陸曹
山中 一睦

五日間の中央訓練を終えてまず思ったことは、訓練担当部隊の方々への感謝、そして参加して良かったということでした。

今回の訓練は、遠州灘沖を震源とする大規模地震が発生、離島で救援活動中の普通科中隊の交代として予備自衛官一コ中隊を派遣し、災害派遣活動を継続するという想定のもと、大規模な実動訓練が行われました。

輸送ヘリによる空中機動で災害地に前進し、部隊の指揮活動、要救助者の捜索救助、救護所での医療支援、被災者の入浴支援、炊き出しといった任務にそれぞれ分かれ訓練を実施しました。

私は消防職員ですが、後方支援隊として自衛隊の災害時における後方支援業務の一端を体験することができ、消防の災害時の後方支援についての様々な気

付きがあり有意義な訓練となりました。

また、市ヶ谷駐屯地においての表彰式では吉田陸上幕僚長から直接お声がけをいただき、誠に光栄な時間となりました。

最後に全国から集まった仲間との出会いに感謝いたします。



市ヶ谷研修





自衛隊
香川地方協力本部
予備二等陸曹
船橋 健志

令和四年七月二十二日から二十六日の間、中央訓練に参加しました。十年前にも声を掛けられ参加予定でしたが、怪我により参加できず、今回再度声をかけていただき、大変楽しみにしておりました。全国から選抜された優秀な予備自衛官が集結すると聞き、いつもの招集訓練より更に緊張感を持ったものとなりました。

総合訓練としては、南海トラフ地震を想定した新島での人命救助を行うものであり、その中の事前訓練では第一線救護や人命救助システムの取扱要領を訓練し、現地想定訓練では輸送ヘリへの搭乗から始まり、実際の災害さながらの訓練となりました。現地では、土砂崩れの現場に向き、行方不明者の捜索・救出を行うという過酷な訓練と



なりました。

今後、このような訓練は通常の招集訓練においても必要と感じられました。

また今回、陸上幕僚長より直接永年勤続者表彰を授与され、慰労の言葉をいただき大変嬉しく思い、ここまで続けてこられたのも勤務先や家族からの応援のおかげと感じました。

最後に、訓練担当部隊の方々へ感謝するとともに、このような機会を与えていただき本当にありがとうございました。



自衛隊
函館地方協力本部
予備二等陸曹
小泉 悟

平成十四年に予備自衛官に任官して二十年間、これまで完全出頭を貫き、二十一年目、ついに念願の予備自衛官中央訓練に参加する事ができました。

初日の着隊式、精神教育から始まり、二日目の警備訓練、三日目の輸送ヘリによる機動訓練やGICSSを利用した訓練等、普段実施している訓練とは別物で、非常に意義かつ貴重な経験ができました。

また、四日目に実施した永年勤続表彰式では、陸上幕僚長から直接表彰を受け、大変光栄であり、生涯の思い出となりました。

本訓練を通じて、予備自衛官等制度の重要性をさらに深く認識することが出来たとともに、有事等における役割について考える良い機会となりました。



最後に、コロナ禍で訓練の実施が困難な中、感染防止対策を徹底し、安心、安全に訓練を実施できたことを、本訓練を担当された関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。



自衛隊
福島地方協力本部
予備三等陸曹
金田 英一

私は、令和四年七月二十二日から二十六日の間、令和四年度予備自衛官中央訓練に参加しました。コロナ禍のため、着隊・離隊時それぞれにコロナ陰性を検査で確認し、訓練中においても不織布マスクを着用する等色々と制約のある訓練でしたが、充実した訓練を行うことができました。

訓練初日は、戦闘服への階級章の縫い付けの最中、同室の人と交流を深めました。

二日目は、G I C S S 訓練（シミュレーター射撃訓練）を実施し、その後屋外で担架を使用しての患者輸送訓練や、災害時の救助訓練を行いました。この訓練では、自分が患者役として担架に乗りましたが、横になった状態での上げ下げ移動を隊員同士が声掛けをしながらすることにより、運ばれる人を安心させること等、作業の連携

と安全のために大切なことを身をもって理解しました。

三日目は、大災害発生時を想定しての訓練のため、輸送ヘリに搭乗し災害想定地（仮想）に離着後、被災者への食事配膳支援を行いました。

四日目は、市ヶ谷記念館を研修し、陸上幕僚長から激励のお言葉をいただき、勤続三十年と勤続二十年表彰の隊員に対し、世界と日本三十年二十年過去に遡って起きた歴史的な事件と照らし合わせながら、その労苦への労いと感謝が述べられ、皆で感動感激したことを覚えています。

最終日は、皆で記念撮影や連絡先の交換を行い、仲良くなった同志との別れを惜しみ、コロナ収束後の再会を誓い合いました。

コロナ禍で不自由な中でしたが、生涯の思い出に残る貴重な経験と感動をいただき、推薦していただいた福島地本に心から感謝いたします。ありがとうございました。



施策の広場

優秀隊員招待行事

「令和四年度優秀隊員招待行事」が、十一月十六日（水）、東京都港区の明治記念館で行われました。

この行事は、陸上幕僚長がそれぞれの職務において、優秀な成績を収めた准・曹・事務官等、即応予備自衛官及び予備自衛官を顕彰するものです。

令和四年度優秀隊員（予備自衛官）

第五十二普通科連隊

即応予備陸曹長

豊見山 加奈子

第三十八普通科連隊

即応予備一等陸曹

小玉 智人

静岡地方協力本部

予備一等陸曹

四之宮 浩

第四十九普通科連隊

即応予備陸曹長

櫻井 修

佐賀地方協力本部

予備一等陸曹

香月 克文

受賞おめでとうございます。

「感謝、感謝」



第五十二普通科連隊
即応予備陸曹長

豊見山 加奈子

この度の優秀隊員招待行事に主人を伴って慣れない新制服に身を包み参加させて頂きました。会場の明治記念館は、由緒ある場所だと知っていました。外観も建物内も豪華絢爛で、厳かな雰囲気。授与式では、陸上幕僚長より直接顕彰状と記念品等を頂き、一気に実感が湧き始めました。その後の夕食会は和やかな雰囲気の中で行われ、会食中に隊員やメッセージの紹介等もあり、リラックスした楽しいひと時を過ごすことができました。受賞の際に陸上幕僚長より「感謝の気持ちを忘れずに」と陸自最先任からの「ありがとうと言おう」との言葉が大変心に残りました。どちらも同じ意味合いですが、本当にその通りだと思いました。思い返せばこの二十数年間招集訓練に参加し、さらに災害派遣活動に

従事することができたのは、家族や職場の協力があつたからこそ成し得ることができたのです。

そして、訓練に携わる常備自衛官の皆様、優秀隊員に推薦して下さった方々、行事参加にあたり様々な調整等をして下さった係の方、心より感謝いたします。

最後になりますが、行事を円滑に進めるために勤務された関係者の皆様、本当に有難うございました。



令和四年度 優秀隊員に選ばれて



第四十九普通科連隊
即応予備陸曹長

櫻井 修

まず始めに令和四年度優秀隊員に選んで頂いたことに感謝を伝えたいと思います。優秀隊員に選ばれたと聞き嬉しいと思う反面、受賞した実感はなかなか湧いてきませんでした。即応予備自衛官として、二十四年間勤めることが出来たのは、常備自衛官の皆様及び即応予備自衛官の仲間を支えて頂いたこと、出頭に理解を示してくれた家族の存在が大きかったと感じ感謝しています。

任務の中で一番心に残っているのは、西日本豪雨災害による災害等招集命令に応じることが出来たことです。訓練を共にする仲間と力を合わせ地域の復旧に関わることができたことは、即応予備自衛官として誇りに思います。

最後に今回受賞したことを深く心に刻み、このような機会を与えてくださった皆様に重

ねて深く感謝を申し上げます。



防衛大臣感謝状受賞企業

防衛大臣感謝状を受賞して



セントラル警備保障株式会社
仙台支社 支社長

日置 勸治

この度は予備自衛官等雇用功労による防衛大臣感謝状を賜り誠に有難うございます。

弊社は宮城県及び福島県の中心部を担当し、主に施設警備と機械警備業務を行っております。現在、仙台支社には即応予備自衛官四名、予備自衛官一名、自衛隊出身者九名が在籍しております。

警備業務はおお客様の安全や安心を守る仕事です。自衛官と共通する点が多く業務を行う上でもメンタル面では非常に役立っております。

東北地方は災害が多く発生する土地柄です。招集訓練を通じて心身共に鍛えることにより日々の業務や、いざという時の招集時にも役立てるよう会社としてもバックアップしてま

います。

今後とも自衛隊出身者の雇用を積極的に推進させて頂くと共に、自衛隊の皆様のご今後の発展を心よりお祈り申し上げます。



予備自衛官等協力事業所表示制度

大臣認定協力事業所の認定を受けて



宮交タクシー株式会社
取締役業務部長

橋本 誠

この度は、予備自衛官制度への協力について高い評価をいただき、名誉ある防衛大臣認定協力事業所の認定を賜り厚く御礼申し上げます。

弊社は、タクシー及び貸切バスの事業所として、宮崎県下に十一か所の営業所を構え、日々の安心・安全に努める旅客自動車運送事業に従事しています。

旅客自動車運送事業の職務上、安全運転は当然のことながら、お客様への接客態度も大事な要素となります。現在、弊社には1名の即応予備自衛官が在籍しておりますが、礼儀正しく、無事故無違反で規則を遵守しており、お客様からも感謝のお言葉を多くいただく等、会社にも多大なる貢献をしております。

今後も、引き続き仕事と訓練及び災害時等の活動が両立できる環境を整え、退職自衛官

を積極的に雇用するとともに、予備自衛官等制度の普及促進、雇用拡大を応援して参る所存でございます。

最後に、自衛隊の皆様方の今後益々のご発展とご安全を心よりお祈り申し上げます。



株式会社弘和通商
管理部 部長

清水 雅則

即応予備自衛官を雇用して

【即応予備自衛官を雇用するメリット】

当社は生活必需品の運搬を主としている運送会社です。会社は三六五日休むことなくドライバーが北海道内を運搬しています。即応予備自衛官の方の運転に対しての意識や運転能力の高さ、事故発生率の低さは他の従業員模範となっています。

どんな環境でも安全で臨機応変な対応を任せることができるので、お客様のニーズや取り扱う商品にあわせた運搬を行うことができます。特に北海道の路面状況の変化にあった運転が求められるので過酷な訓練において鍛錬してきた冷静な判断力やスキルを持ってい

ることが安全運転にもつながっていることを
本当に日々実感しています。

【訓練出頭等で配慮していること】

年休は使わずに訓練日は出勤扱いにて対応
しています。

出勤日とのバランスをとり、疲れを溜め込
まないようなシフト作成をするため、訓練終
了の翌日は公休をいれるようにしています。

【元自衛官に求めること】

運送会社として、事故のない安全な運行を
日々積み重ねていくことがお客様からの信頼
にも繋がり、従業員も安心して仕事のできる
環境づくりにつながっていくと思っています。
そのために元自衛官の方には、訓練によつて
得た高いスキルを他の従業員に伝承していく
ことや人と人の関わりを通じて組織の中で
培ったチームワークや協調性の大切さなど、
他の従業員にも連動できるよう運転業務はも
ちろん運転業務以外の分野においても大いに
活躍してほしいと期待しています。

女性活躍

即応予備自衛官になって



第五十二普通科連隊
即応予備陸士長

神力 春奈

私は、一身上の都合により退職しましたが、
退職後も何か自衛隊に携われることはないか
と考えていたところ、即応予備自衛官制度を
勧められ志願しました。

最初の頃は、全く違う職種に変わるため不
安でしたが、常備の方々や先輩方が優しく丁
寧に教えて下さったので訓練間安心して過ご
すことが出来ました。また、仕事と招集訓練
の両立にも不安がありました。が、職場の皆様の
理解と協力により不安もなく招集訓練に参
加できていると感じています。

女性自衛官として、訓練間不便なことが
多々ありそうだと思っていました。が、そんな
ことは一切なく、とても快適に過ごすことが
出来ています。

野営訓練の際、トイレの区別はもちろん入
浴もしっかり出来るので安心して野営訓練に

参加することが出来ました。普段の招集訓練
でも差別されることなく、全て丁寧に教えて
いただけます。

このような不安がある中でも招集訓練に参
加できるのは、職場の方々の理解や即応予備
自衛官の先輩方の協力、常備自衛官の皆さん
の適切なサポートのおかげです。心から感謝
しています。

これからも、職場の理解を得ながら年間三
十日間の訓練出頭を目指し、即応予備自衛官
として頑張りたいと思います。



訓練検閲に参加して



第三〇一普通科直接支援中隊
即応予備陸士長

高橋 順子

訓練検閲間における私の任務は、車両整備小隊において装輪車整備手として車両整備品の整備支援を実施することでした。

当初、中隊長から命課を受け、「即戦力として大いに期待している。」という訓示から緊張感を抱いておりましたが、初めて触れる器材や整備に対して、気持ちを落ち着かせて同じ組員の展示を基に作業手順をしっかりと把握してから実施することで、スムーズに作業を進めることが出来ました。作業中にも不明な点を明確にしながら確実に進められたので良かったと思います。

今回に限らず、どんな時も不安やわからないことを相談でき、教えて下さる常備自衛官の皆さんの親切な対応と何事にも安心して取り組める環境に感謝の思いしかありません。訓練検閲に今回初めて参加して感じたことは、日頃の訓練において練度を高めることの重要性です。基準をクリアすることにとどま

らず、もっと正確に、もっと早く、もっと効率良くするにはどうすればいいのか考え、今後の練度向上に繋がっていきたいと思います。

二足のわらじ



自衛隊群馬地方協力本部
予備二等陸曹

太田 有沙

私は平成二十五年に技能公募の予備自衛官補に採用されました。保有する技能は自動車整備士です。武山駐屯地での訓練を経て、平成二十六年に予備自衛官に任用しました。

父が陸上自衛官、母は元陸上自衛官で予備自衛官、叔父が海上自衛官という自衛隊一家で育ちました。幼い頃から父の仕事に馴染みがあり、物心ついた時には母が五日間予備自衛官訓練へ出掛けていました。また妹も陸上自衛官となり、現在勤務しています。私は幼い頃から自動車整備士を志し、群馬自動車大学校二級自動車整備科を卒業したのち、トヨタカローラ高崎株式会社へ入社しました。

六年間エンジニアとして主に車検整備を担当し、一番の思い出は若手エンジニアを対象

にした社内技術コンクールにて優勝した事です。現在はサービスマンバイザーにステッパアップし、自動車整備士の知識と経験を生かして窓口業務をしています。不具合や不調をお客様から伺ったり、整備見積りや部品の仕入れ、エンジニアの仕事の計画を立て実際に指示を出したり、保険会社との協定など非常に幅広いです。売上管理をしながら、お客様、店舗の全スタッフとの架け橋的な業務になります。女性目線を一番に大切に、親身に分かりやすい整備説明、お客様とスタッフから親しみを持ってもらえる様な窓口対応を心掛けております。

母から技能公募の予備自衛官補制度がある事を聞いて志願しました。合格した事を打ち明けた時に、当時の上司が制度を積極的の理解し、本社へ掛け合ってくれたおかげで、社会貢献活動として訓練出頭中は出張扱い、定休日と訓練が重なった際には、代休を取得して良いという想像を超える待遇を頂きました。殆どの予備自衛官は休日や有給休暇などで出頭している中で、当社は自衛隊に理解があり非常に協力的です。

現在は母と訓練出頭しています。予備自衛官補の訓練だけでは何一つ分からず不安でしたが、周りの予備自衛官が温かく迎え入れて下さり、安心して訓練しています。母は数年

で上限年齢を迎えるので私が一人でも出頭できる様にと厳しく突き放しますが、母と同じ時間を過ごし、同じ事に取り組みたい機会です。五日間訓練の楽しみの一つになっています。

厳しい環境へ身を置く事により心身共に鍛えられ、日頃の業務へも生かせています。町を走る車両の安全を担う女性自動車整備士、国防を担う女性予備自衛官、二足のわらじを履く者としてこれからも頑張ります。



自衛隊と民間の 懸け橋になるため



自衛隊千葉地方協力本部
予備陸士長

網仲 真美

普段衆議院議員の事務所で地元秘書として勤務しております。仕事で地元の方々と一緒に見学の案内で防衛省に赴くこともあります。今回習志野駐屯地で予備自衛官訓練に女性として初めて訓練に参加させて頂きました。今までは女性の予備自衛官の受入がなかったため訓練に参加することに不安も感じましたが、担当中隊より細やかなお気遣いを頂き、訓練に参加することが出来ました。私にとっても実り多い訓練となり、心より感謝申し上げます。

私が予備自衛官で任官していることを知ると同僚始め、様々な方から多くの質問をされます。訓練内容をそのまま伝えるとわかりにくいので、例えば野外衛生・救急法は「AEDの使い方、怪我人の運び方、止血の仕方を専門の教官に指導してもらって皆で勉強します。」歩哨・外哨は「駐屯地の前を通ると必ず自衛官がいますよね、不審者が入って来な

いように警備する練習をします。何も知らないとお互い不安になりますからね。」と若干ズレはあるかもしれませんが言い換えてお答えしています。そして最後に「火事でも地震でも戦争でも、なにより越したことはないけど、今のご時世絶対には言い切れないからいざという時のために常に準備しています。本職の自衛官が任務に専念出来る様に予備自衛官がいます。」と言い添えると大抵の方は理解してくれ、がんばってねと温かい言葉をかけてくれる方がほとんどです。

また、訓練に参加する度に知り合う諸先輩方から様々なお話が聞けるのでいつも楽しみです。伺った話を他の方に話すことによって、自衛隊の理解をさらに広めることができるからです。

予備自衛官補だった時、食堂に設置してあるテレビに陸上自衛隊のヘリコプターが被災者を救出している映像が流れました（平成二十七年鬼怒川氾濫災害派遣）。ざわついていた食堂が一気に静かになり、その場にいた全員が食い入るようにその映像を見つめていました。同じ迷彩服に身を包み、救助活動をする隊員を目の当たりにし緊迫感が走りました。被災者や自衛隊員の無事を祈るとともに今後予備自衛官になった後、自分に何が出来るだろうかと自問自答しました。そして、多くの

ことはできないけど自衛隊と民間の懸け橋になるために、もっと多くの人に自衛隊のことを広く伝えていこうと思いました。そしてその気持ちは今も忘れたことはありません。

最後になりましたが、予備自衛官補の時、最後までお世話になった中隊長、区隊長、班長方々を始め、同期の仲間、今回このような場を与えてくださった地本の方々に心より感謝申し上げます。

顕微鏡と双眼鏡



自衛隊滋賀地方協力本部
予備自衛官補

浅田 統子

大腸菌を用いた廃電子機器からの有用金属の回収を目標に、研究に取り組む大学院生でありながら、この度、技能（語学）公募の予備自衛官補に採用され辞令書を頂きました。

研究で顕微鏡を用いますが、自衛隊のポスターでは双眼鏡を覗いている隊員が印象的であったため、現在の私自身の立場を表す言葉として、題名を「顕微鏡と双眼鏡」にしました。さて、大学生活の後半はコロナの影響を大

きく受け、これまでの「当たり前」が大きく変わりました。そのような中で、自身の興味関心事や今できることを、機先を制して実行する重要性を深く感じました。そこで偶々、地方協力本部の方の説明を聞く機会があり予備自衛官に興味を持ったため、取得していた英検準1級の資格を用いて技能公募の予備自衛官補を志願しました。受験までに、既に語学で採用された予備自衛官の方から訓練の話を伺うこともあり、翻訳や通訳として日米共同訓練や災害救助の現場で勤務するなど、具体的なイメージをもつことが出来ました。

辞令書交付式での式辞で、自衛隊の訓練のイメージとして体力強化ばかりが先行するが、鍛えるべきは国や地域・他人のために自分の能力を発揮する使命感や、困難な状況でも適切な判断ができる判断力であると伺いました。また、安全保障の重要性が高まる中で他国を鑑みると、自分の国を自分の力で守るという意識を持つ重要性に気づかされました。予備自衛官となり、語学を磨きながら国防の一役を担えると幸いです。

しかし自衛隊での訓練が研究や将来のキャリアに直接役立つとは限りません。それでも自衛隊でしかやれない経験を、年齢や本業の異なる多様な人々と積むことで、判断力や環境適応力の向上といった自己成長に繋が

自信を持ちながら社会貢献できると考えます。まずは十日間の教育訓練を経て予備自衛官になり、更に自分の強みや不足することを認識することで今後の大学院生活やキャリアに還元したいです。

予備自衛官になって



自衛隊鹿児島地方協力本部
予備一等陸尉

益 智美

父が自衛官だった事もあり、自衛隊の存在を身近に感じていた私は、技能予備自衛官となり十二年経ちました。二十四時間三六五日係り付け医と救急車を受け入れる救急クリニックで看護師として働きつつ、予備自衛官として西部方面衛生隊で五日間の訓練に参加し、同じ医療で二刀流とは言えませんが病院と自衛隊、それぞれの場所で様々な経験をし、知識と技術を深める事が出来ていると思います。五日間の訓練も分割した事はなく、五日間連続で行く事が出来ており、職場の理解と協力において、私は恵まれた環境だと実感しています。その様な中、令和二年の熊本県を中心

とした豪雨災害では災害招集され、初めて被災地の状況を目の当たりにし、被災者の方々からの自衛隊への期待は大きいもので、その一員になった事は公募予備自衛官の私達にとって大変意味深いものでした。また、昨年度は西部方面隊優秀隊員に選んでいただき、予備自衛官として医療従事者としてありがたく嬉しいものでした。

自分なりのちょっとした努力と、学べる、経験できる環境は貴重でありがたく、充実したものへと繋がっています。そして、九州沖縄の予備自衛官の仲間では、訓練以外で、コ



ロナの情報交換なども行い、広い視野に繋がっていると思います。最後に私が忘れないように意識している言葉があります。予備自衛官補の教育を受けた相浦駐屯地内にあった石碑に書かれていた「初志貫徹」そして、教育で学んだ時に出てきた言葉で、赤十字を掲げる事、ジュネーブ条約についてです。医療従事者でありながらも銃を手にする事の意味です。そして医療従事者として、予備自衛官として、それぞれの自分の立場を考え恵まれた環境と、一緒に医療に携わる仲間への感謝を忘れずに、予備自衛官を頑張っている仲間へ感謝をします。使命感と耐え忍ぶ強い心「人の為、国民の生命と平和を守る為」などが強く感じられる現職自衛官の方々に近づけるよう努力します。



招集(教育)訓練の広場

予備自衛官招集訓練

予備自衛官招集訓練を担当して



自衛隊函館地方協力本部
防衛事務官

堀江 康志

自衛隊函館地方協力本部では、年四回予備自衛官招集訓練(二日間)を実施しております。今年度の招集訓練では、新型コロナウイルス感染症対策として、出頭時の検温、出頭前十四日間健康観察及び当日の健康状態を確認し、手指消毒を行った後、訓練を開始しております。

訓練では、予備自衛官等制度の説明を実施し、予備自衛官としての資質の涵養を図り、次年度からの予備自衛官招集訓練(五日間)の出頭に向け、出頭調整や出頭要領について

認識の統一を行っております。

また、自衛隊函館地方協力本部では、独自に函館地方隊友会と連携し、隊友会長から予備自衛官としての心構えや隊友会の概要等を説明して頂き、隊友会組織の維持拡大を図っております。

なお、函館地方隊友会では、予備自衛官招集訓練(五日間)や即応予備自衛官招集訓練において、射撃検定の優秀者に対して表彰を実施しており、予備自衛官等の激励及び防衛意識の向上にも寄与しております。

今後も予備自衛官の皆様が出頭しやすい環境づくりに努め、予備自衛官勢力の維持向上に取り組んでまいります。



隊友会射撃表彰



招集訓練制度説明

予備自衛官招集訓練を担当して



東部方面衛生隊
一等陸尉

大塚 雅史

東部方面衛生隊は、令和四年十月二十一日から十月二十五日までの五日間、朝霞駐屯地において予備自衛官招集訓練を担当しました。予備自衛官招集訓練は、新型コロナウイルス感染症による影響で、約二年ぶりの開催となりました。今回の招集訓練の企画に当たっては、自衛隊東京大規模接種会場への勤務員の差出し、訓練企画の経験者の異動・転勤、新型コロナウイルス感染症蔓延下での訓練実施という以上三点の事項を考慮して計画することが必要で苦労が絶えませんでした。

特に、大規模接種会場運営により招集訓練に対応できる隊員数が少なく、招集訓練運営においては人員確保に苦労しました。また、今回の招集訓練は一日目に受入と全般説明、二日目に体力測定と射撃予習、三日目に射撃検定と衛生隊長精神教育、四日目に職務訓練、

五日目に職務訓練後の分析・評価という日程で計画しましたが、日々、出頭・帰宅される方々の掌握、スケジューリングにも苦戦しました。一方で二年ぶりに参加された予備自衛官の士気はとても高く、予備自衛官の皆様のご期待に応えるため、職務訓練の内容を私なりに工夫しました。「昨今、災害派遣活動の現場において予備自衛官が積極的に運用されているという現状で、予備自衛官の皆様の豊富な経験や知識・技術を活かせる訓練とは何か」を熟慮した結果、「災害派遣活動において予備自衛官主体で運営する野外救護所での救護活動」としました。

職務訓練は、招集訓練の初日から三日目までの間に訓練実施要領と災害派遣の場の設定について説明を行い、「救護所で活動するチームの編成、救護所の内部配置及び業務運営要領の検討」を課題として付与し、四日目に実施しました。予備自衛官の方々が空き時間にミーティングを行い、救護所における役割の割り振りや業務運営要領等を自主的に検討していたことは印象的でした。

職務訓練当日、午前中に救護所内部配置の変更及び患者予行（運営予行）を予備自衛官

計画で実施した後、午後から訓練を開始し、統裁部から患者発生状況の状況を付与して、救護活動を演練しました。参加者には、災害時医療に精通した日本DMAT事務局員やDMATで活躍されている医師・看護師・業務調整員など、CSCATTT（指揮と連携、安全確保、情報収集伝達、評価、トリアージ、搬送、治療）という災害対応の原則をコンセプトに安全・円滑に救護所業務を遂行されていました。

また、職務訓練後の分析・評価においては、「業務運営のコンセプト」、「①人、②物、③場所、④システム（態勢）」に関し、良好な事項、改善が必要な事項、「救護所リーダーからの所見」の発表等、本訓練における学び（教訓事項）を共有しました。他にも、傷病者役を務めた予備自衛員から「大量の傷病者を効率的に救護することに偏重し過ぎていて、患者として戸惑った。」という意見から、災害時においても患者に対する接し方に気を払う必要があることや、災害発生後の亜急性期における歯科治療の必要性など、予備自衛官の活きた経験に基づく意見も共有できました。

我々、現役自衛官にとっても学ぶことが多

く、双方にWin・Winな訓練を実施できたと考えます。今回の招集訓練の教訓のもと、現役自衛官と予備自衛官との連携を強化し、災害現場等における被災者に寄り添った救護活動等につなげていく所存であります。

また、新型コロナウイルス感染症対策として厚生労働省から示された基本的な感染防護処置を確実に実施することで感染症防止を考慮した安心・安全な訓練基盤の構築も図っております。予備自衛官の皆様におかれましては、是非、積極的な招集訓練への参加をよろしくお願い申し上げます。



即応予備自衛官招集訓練

即応予備自衛官とともに



第四十九普通科連隊
一等陸曹

渡久地 順

コア部隊勤務三年目、当初、私は即自隊員の招集訓練計画は、予備自衛官のように年間を通し、ある程度決まりきった事を実施するものと考えていた。しかし年間三十日出頭において、体力検定・救急法検定その他、各種射撃訓練等実弾を使用する危険を伴う訓練もあり、一般部隊の隊員とあまり変わりはない。また、即自隊員は多種多様な職業に就き、普通科以外の職種隊員も多く、慣れない訓練・動作・行動などを実施し、大変であると感じる。そのため日頃の訓練を通して、目標に向け基礎訓練から応用訓練を実施する中で各種行動における認識の統一を図るとともに、日頃から即自隊員との意思の疎通をとることが大事だと感じている。現在、先任上級曹長

として常備隊員・即自隊員の色々な相談や、問題点などの解決に努めているが、今後もサポートし、微力ながら誠心誠意努力していきたい。

予備自衛官補招集教育訓練

予備自衛官補招集教育訓練の班長として



西部方面混成団
二等陸曹

中曲瀬 勝巳

私は、令和四年三月、第一一三教育大隊へ異動後、予備自衛官補招集訓練の班長として勤務しています。

主な教育の内容は、予備自衛官として必要な基礎的知識及び技能を修得させる事です。特に、戦闘訓練では、射撃と運動の動作を教育訓練しました。その中でも堆土を利用した射撃と運動では、慣れない銃の重さや動作に苦戦する様子でしたが、敵を意識させる事で低い姿勢を維持させ又左肘を依託させる事で

堅固な射撃姿勢を保持する事を着眼に反復演習を実施したところ、予備自衛官補の皆さんの向上心と努力もあり日々練度向上する姿を目の当たりにしました。

予備自衛官補を教育し日々上達していく姿を見て私自身も「まだまだ向上しよう」という気概を持ちました。

今後は、更に知識及び技能を磨き、指導能力を向上させ、より良い教育訓練ができるよう精進していこうと思います。



各部隊等の訓練紹介

使命感と帰属意識を向上

令和4年度即自招集訓練開始式

第四十七普通科連隊

第四十七普通科連隊は、四月九日及び十日の両日、「令和四年度即応予備自衛官招集訓練開始式」を実施した。

招集訓練開始式は、毎年、年度当初に即応予備自衛官の出頭駐屯地である、姫路・米子・日本原・海田市・善通寺・松山の六コ駐屯地において、士気の高揚及び帰属意識の向上を目的として各担当中隊長が実施する創隊以来の伝統行事であり、国歌・連隊歌の斉唱、立会者（連隊長又は副連隊長）訓示、参列地方協力本部長からの祝辞により執り行われた。

立会者である連隊長は、「常備自衛官と予備自衛官が共に切磋琢磨し、任務遂行に必要な心技体の更なる充実を祈念する」と訓示し、即応予備自衛官としての使命感と帰属意識を向上させた。

小銃の授与や服務の宣誓を終えた新規採用者約四十名からは、「即応予備自衛官になった実感が湧いた」「不安はあるが訓練を頑張ります」などの声が聞かれ、先輩の即応予備



海田市駐屯地における訓練開始式（壇上は連隊長）

自衛官からは、「新規採用者を含めて一致団結して訓練に精励し、国民の負託に応え得る能力を向上させます」と力強い声が聞かれた。連隊は、全国コア連隊の「魁」としての誇りを堅持し、「常即一体」となり、新戦力を加え更なる練度向上を図るべく招集訓練に邁進する。

第一次連隊火砲等射撃 射撃練度の向上へ

第五十二普通科連隊

第五十二普通科連隊は、六月十六日（木）から十九日（日）までの間、北海道大演習場島松地区において第一次連隊火砲等射撃訓練を実施した。本訓練は、連隊が保有する八七式対戦車誘導弾、一二〇mm重迫撃砲、八一mm迫撃砲等、各種装備火器の射撃を各中隊に担



訓練を見学する雇用企業の方々

任実施させ、常即とともにその射撃練度を向上させた。また、射撃訓練間の一八日（土）には、即応予備自衛官が普段勤務している企業の雇用企業主や連隊OB等を招き、新型コロナウイルス感染症防止対策を万全にして訓練公開の場を設定し、連隊の射撃練度及び精強性をアピールした。

本訓練公開において雇用企業主に対し、招集訓練等の実情を周知するとともに、即応予備自衛官制度の重要性について更なる理解の促進を獲得した。

佐官予備自衛官 二日間招集訓練

自衛隊宮城地方協力本部

自衛隊宮城地方協力本部は、令和四年八月六日及び七日の二日間、仙台駐屯地において東北方面衛生隊が担任した佐官予備自衛官招集訓練を支援し、四十三名の佐官予備自衛官が参加した。

招集訓練は、マスク着用やソーシャルディスタンスの確保等、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を講じて行われ、隊長への申告に始まり、初日は駐屯地で体力検定と射撃予習、二日目は、王城寺原拳銃射場において

射撃検定が実施され、参加者は新型コロナウイルス感染症防止とともに、高温多湿による熱中症予防にも留意しての訓練となった。

宮城地本では「コロナ禍においても予備自衛官が安心して参加できるよう新型コロナウイルス感染症防止に万全を期す」としている。



体力検定の様子



訓練開始式



本番に向けての射撃予習

訓練に満足し 来年も俱知安に出頭したい

北部方面対舟艇対戦車隊

北部方面対舟艇対戦車隊は十月二十一日から二十五日までの間、予備自衛官四十五名に対し、招集訓練を担当し、救急法及び野外衛生、野外勤務（ドローン操作研修）、射撃検定、体力測定、駐屯地警備訓練等を実施した。所見では、「訓練に満足し来年も俱知安に出頭したい」という意見が多く寄せられた。



ドローンの概要について説明を受ける予備自衛官

任期制退職予定隊員等による 即応予備自衛官雇用企業研修

自衛隊宮城地方協力本部

宮城地本は、令和四年八月二日及び四日、任期制退職予定隊員等による即応予備自衛官雇用企業研修を実施した。

本研修は、二年以内に退職予定の任期制隊員等が、即自雇用企業を研修させて頂き、就職と即応予備自衛官の両立に対する不安感を除去し、部隊等の即自志願者の確保を支援するものである。即自雇用企業五社の協力を得て、宮城県内所属部隊から三名が参加した。

研修では、企業の業務内容、訓練招集への対応、即自に対する処遇等について、丁寧に説明頂くとともに、各企業で勤務している先輩即自隊員から近況を話して頂く等、非常



タンクローリー研修(株丸運トランスポート)



先輩即自隊員との意見交換(株奥羽木工所)

に貴重なものとなった。

参加した隊員は、企業担当者から説明を受けるとともに、先輩即自隊員の体験談に熱心に耳を傾ける等、就職と即自の両立について理解を深めていた。

今後も、即自雇用企業と連携を図り、即自制度に対する更なるご理解を頂くとともに、即自志願意識の高揚、訓練出頭環境の維持等に努めていく。

予備自衛官一日間招集訓練 ～ 応招確認システムの普及促進 ～

自衛隊宮城地方協力本部

自衛隊宮城地方協力本部は、四月二十四日、仙台第四合同庁舎において、令和四年度初となる予備自一日間招集訓練を実施し二十七名が参加した。

招集訓練は、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を講じて、本部長に対する申告、服務の宣誓、本部長訓示及び制度説明等を実施した。

また、招集における実効性の向上のため「応招確認システム(注)」の普及促進に注力した。令和三年二月十三日に引き続き、令和四年三月十六日の福島県沖地震で震度六強が発生し

た宮城県内においては、蓋然性が高まる中、更なる普及促進が必要との認識である。

(注) 応招確認システム…災害等の発生に伴い、予備自衛官等に対し、安否・応招確認のためのメールを一齐送信し、HP上に自動で集計された予備自衛官等らの回答結果を管理者(地本)が確認できるシステム



服務の宣誓



応招確認システム登録

仲間の広場

予備自衛官の仲間から

招集訓練出頭三十回を迎えて



自衛隊滋賀地方協力本部
予備二等陸曹

井上 実

平成二年、高校卒業後に朝霞駐屯地の第三十一普通科連隊教育隊に入隊し、教育終了後はそのまま第二中隊に配属されました。現職の時には演習場での訓練だけではなく、と列や儀仗隊など内容の濃い二年間を過ごしていましたが、残り三か月となった時に迷いもありましたが退職を決め、平成四年に一任期満了で退職し同時に予備自衛官に採用されました。

会社員として働きながらも予備自衛官としての自覚を持つ事でモチベーションを保つこ

とができ、学卒の同期に負けまいという強い責任感を持って仕事で成果を出すことが出来ました。

今の勤務先も勤続三十年となり、その間には転勤や病気など、継続するのが困難な状況もありました。でも辞めてしまつては自分と自衛隊を繋ぎ止めるものが無くなってしまつたため、年一回の訓練とはいえ、続けて行くために身体の健康管理には十二分に注意するようになりました。幸いにして体を動かすことが趣味であることも手伝い、体力の低下を緩やかにする事だけは出来ています。

このように意識を高く持つ事で、予備自衛官としての経験が会社での新人教育や自治会の活動でも大いに生かされています。

現在は仕事での立場上、分割出頭にせざるを得ない状況ですが、自衛隊に対する思いと体力が続く限りは継続をしていきたいと思っています。

有事に活かす、予備の「力」を胸に



自衛隊愛知地方協力本部
予備三等陸曹

原田 健伍

私は、社会人として仕事をしているので、会社の理解を得る事が大きな問題でした。一回に五日連続の訓練に参加するためには休日二日に合わせて休暇を三日間取得する必要があります。そのため休暇を使用しても困らないだけの有給休暇を確保できた年に予備自衛官補に志願しました。繁忙期を避けて訓練日程を選択したため会社の理解を得ることができ、無事に全課程を修了することができました。

一緒に訓練をした仲間達は学生から社会人まで年齢層も幅広く、人を助けない、国を守る一翼を担いたいという使命感の強さを感じました。異なる環境から集まった仲間と切磋琢磨できた環境は貴重な財産です。潜在的にリーダーシップのある人、責任感が強い人、協調性のある人、気配りができる人、優しい

人など色々な個性が集まります。訓練を通して、その一人一人の個性が大きな「力」となり、有事の際には、大いに役立つと確信しています。

私自身も日々の業務と併行し予備自衛官であることの誇りを胸に、いざという時に向けて心身を鍛え続けます。

一緒に頑張りましょう！

技能公募(エンバーマー) 予備自衛官として



自衛隊神奈川地方協力本部
予備二等陸曹

柴田 肇

「今年からエンバーマーが予備自衛官として募集されるがやってみないか？」

きっかけは、上司からのこの言葉でした。元々、予備自衛官制度に興味があった私は、自分の技能を活かせるチャンスを知り、一も二もなく志願いたしました。

エンバーマーとは、亡くなられた方のお身体へ防腐処置や修復を行い生前に近い状態

の長期保存を可能とするエンバースタッフ処置をする技術者を指します。日本では遺体衛生保全士とも言われています。

災害等、自衛隊が動く場合において、人の死が絡むことがあります。近年では、東日本大震災で遺体の収容・仮埋葬などの任に当たった方は、精神的にもかなり厳しい状況であったと聞いております。今後は、ご遺体への対応に精通したエンバーマーにより、迅速かつ丁寧な任務遂行を期待されていると思います。そのため、私を含めたエンバーマーの任務は隊員やご遺族の時間と精神面を守ることになると考えています。

いざという時のため、誰かとその人の大切な人のために、これからも研鑽を怠らず、精一杯努力しようと思います。

人の役に立ちたくて



自衛隊新潟地方協力本部
予備三等陸曹

菊池 聖

私は、静岡県の高校を卒業する時、人の役に立つ仕事をする公務員になろうと思いました。第一希望が郵政省(当時)郵便局、第二希望が自衛隊。郵便局の試験に合格し、内勤の職員となりました。しばらく勤務しましたが、退職して北海道に移住し山仕事に従事しています。ある時、町役場で予備自衛官補募集のポスターを見て、昔を思い出し早速応募、試験合格。

平成十七年七月に予備自衛官補(一般)に採用され、北部方面教育連隊で計五十日間の招集教育訓練を修了し、平成十九年九月に予備自衛官に任命されました。

予備自衛官になった当初、訓練全体に戸惑いがありました。予備自衛官補制度がまだ浸透していなかったのもありました。ですので、二士という階級や肩章の違いを説明したところ、

周りの方々から親切にしてくださいました。助教や仲間のおかげで訓練を続けることが出来て、とても感謝しています。

今後も日程を調整して積極的に訓練へ参加し、国民に必要とされる予備自衛官でいられるよう精進してまいります。

訓練から得る活力と知見



自衛隊長崎地方協力本部
予備一等陸曹

久野 えり子

二〇一六年に予備自衛官としての第一歩を踏み出し、五日間訓練をはじめ、中央訓練や転地訓練など、様々な訓練に参加させていだいていきます。訓練出発前は、参加の心得から持ち物に至るまで、心許ない気持ちは何日も続き、その緊張は解けないまま、毎回出頭の日を迎えています。

しかし、常備自衛官の方々による温かい対応で迎えられ、参加者との顔合わせが終わると、その気持ちが一変するのです。ひとたび

訓練が始まると、力が湧いてくるのです。それは、出身地、年齢、きっかけは違えども、日常生活を離れて寝食を共にし、任務完遂のために軌を一にした仲間がいるからに違いありません。

訓練では、活力を得るだけでなく、多くの知識や刺激を得ています。共に訓練を終えた仲間と知覧特攻平和会館を訪ね、夜通し語り合ったことはその一つです。また、訓練時に知り得た情報から、日本戦没者遺骨収集推進協会実施の遺骨収集活動に参加させていただきました。今後は、予備自衛官として切磋琢磨しながら、得たものを伝える力を養っていきたいと思います。

ちやぶ台返し世界チャンピオン



自衛隊岩手地方協力本部
予備一等陸尉

堀 香乃子

私は、救急救命士の資格を持つ看護師です。平成二十年九月に予備自衛官補技能（衛生）

から、予備自衛官となりました。令和四年度制度化された「看護師予備自衛官の幹部化」により、予備一等陸曹から予備一等陸尉を命ぜられました。

令和四年四月に両親の介護のために、横浜市から岩手県に引っ越してきました。三月までは総合病院の救急外来で勤務をしておりましたが、転居後は警備会社の医療オペレーターをしながら両親の介護をする毎日です。とは言っても、休日は登山や温泉、おいしいもの巡りをするなど、岩手県を満喫することも忘れていません。

そんなある日の朝、ラジオを何気なくきいていると岩手県矢巾町で「ちやぶ台返し世界大会」という面白そうなイベントがあり、その日がイベント当日であることを知り、慌てて駆けつけてエントリーをしました。

ちやぶ台返し世界大会とは、おもちゃのサンマが乗ったちやぶ台を思いっきりひっくり返し、サンマの飛距離を競うもので、練習なしのぶっつけ本番でしたが、サンマは四メートル七十七センチも飛んで見事、ちやぶ台返し世界チャンピオンの座に輝きました！

このニュースが地元テレビ局で放送され、

新聞にも掲載されたことから、職場や横浜の知人からも驚きの連絡が届きました。そして岩手駐屯地での五日間招集訓練に参加した時も、地本の方から「堀さん、ちゃぶ台返しの世界チャンピオンですよね、すごい！」と声を掛けられて驚きましたが、お陰で初めての岩手での招集訓練という緊張も解かれました。ちゃぶ台返し世界チャンピオンといっても、普段の私はちゃぶ台返しするほど怒りっぽくありませんので、予備自衛官として訓練招集に応じ、少しでも皆様のお役に立てるように、頑張りたいと思います。



ちゃぶ台返し世界チャンピオンとなった堀さん



即応予備自衛官の仲間から

即応予備自衛官になって



西部方面後方支援隊
第一〇一弾薬大隊
即応予備陸士長

宮前 和幸

私は令和二年に自衛隊を任期満了で終え、今後も日本の人々の生活を守る仕事に就きたいと思い、社会インフラを整備する㈱ティール・シージャパンに就職しました。就職先を決める際、自衛隊を終えてからも災害時には直接的に困っている人を助けたいという思いがあり、即応予備自衛官に志願しました。

仕事は、建設工事で全国展開のため出張がメインとなり、ひとつの工事の工期が長いため、訓練日程とタイミングが合わず、なかなか訓練に参加する事は難しいのですが、一緒に働く仲間の協力や同意もあり、出来る限り参加できる体制を作ってもらう事が出来ています。訓練に参加し、昔、一緒に辛い訓練を乗り越えてきた仲間と久々に会うと、一瞬で

あの頃に戻る事ができ、大変懐かしく嬉しく思います。また、仲間の近況を知ることと共に、自分の置かれている立場を振り返るきっかけにもなり、自分の気持ちを再認識する良い機会になります。訓練がない時には、災害救助や国防のことなどの情報に触れたり、筋トレを行ったりしています。自衛隊時代の苦しい訓練を乗り越えられたのは、仲間のお陰であり、人を大切に思う事を学べたため、出張中の共同生活でも協調性を持って、どんな年代の人とも、上手く交流できています。今も自衛隊の頃の気持ちを忘れずに会社の上司や仲間へ素直に感謝できるのは、即応予備自衛官でいることが大いに関係していると思います。



これからも、自衛隊で培った体力と精神力、信条の維持の為に即応予備自衛官であり続けたいと思っています。今後、即応予備自衛官は、益々必要とされてくると思われますので、社会貢献したいという気持ちのある方は、是非ともチャレンジして下さい。

即応予備自衛官になって



北部方面後方支援隊
第一〇四補給大隊
即応予備三等陸曹

篠原 尚子

即応予備自衛官になり四年が経ちました。現職の頃は、海上自衛官として日本海側の部隊で事務職（経理）として勤務し、毎日の時間は穏やかに流れていました。退職後、即応予備自衛官として採用され、屋外での訓練が増えました。陸上自衛隊は専門用語が多いため話の内容が理解できなかったり、体力的にも思うようにいかない事も多々ありますが、部隊の皆さんはその都度丁寧に対応してくださり感謝しています。

訓練に参加して、天幕の開設や偽装網の展張、歩哨外哨等を学びました。どれもチームワークが必要であり、常備自衛官と即応予備自衛官が協力して任務を遂行するのを目の当たりにしました。

このような貴重な体験をさせて頂ける事に感謝するとともに、今後の訓練に向けて精進して行きたいと思っています。

即応予備自衛官として



東北方面後方支援隊
第三〇一弾薬中隊
即応予備陸士長

北田 健人

私は自衛官を退官後、東洋ワークセキュリティ株式会社に入社しました。自衛官を退官後も何かしら社会の役に立ちたいと考え、即応予備自衛官を志願しました。

配属先は新編された弾薬中隊で、当初は覚えることが数多くありましたが、諦めることなく弾薬の知識を学び、フォークリフトやハンドパレットの操作を覚え、厳しい野外訓練

などにも全力で取り組み、頑張っています。仕事と訓練を両立させることは簡単ではありませんが、私が全力で訓練に取り組めるのは、いつも懇切丁寧に教えてくれる部隊の方々と、長い訓練期間と仕事との調整を行い、快く訓練に送り出してくれる会社の皆さんのおかげだと感謝しています。

これからも訓練と会社での仕事を両立させ、より成長できるよう頑張りたいです。

予備自衛官補の仲間から

予備自衛官補になれて



自衛隊福岡地方協力本部
予備自衛官補
(技能・語学)

加藤 波磨

私は、十数年前に初めて日本の地を訪れました。生まれ育ちは外国で、日本のソフトカルチャーが好きという以外、日本と大きな接点はありませんでした。旅行で初めて日本を訪れて、ソフトカルチャーはもちろん、日本の四季、風景、それから日本人の礼儀に感銘を受け、留学を決心しました。留学を経て今は日本社会の一員として働いて、日本に帰化をしています。

自衛隊との接点は大学時代からです。北九州市立大学で、日本の防衛や自衛隊についての講義を受講し、予備自衛官の制度について初めて知りました。大学の隣に小倉駐屯地があり、駐屯地内の夏祭りイベントや資料館見学をさせて頂いて、自衛隊の存在が身近とな

りました。

多くの学びと成長を与えてくれた日本に何か恩返しができないかと考え、帰化すれば、すぐにでも予備自衛官になれると思い、帰化した同年に予備自衛官補に志願しました。

予備自衛官補の訓練を通じて、高い志を持った仲間に出会えたことと、わが国に恩返しできることを心から喜んでいきます。日本をわが国と呼べるようになったその誇りを胸に、いざという時には微力ながら力になれるよう、自衛隊の制服を常に背負って日々生活していきたいと思っています。

できることから一歩ずつ



自衛隊旭川地方協力本部
予備自衛官補
(技能・保育士)

近藤 敏子

私は、警察官時代に災害時における被災地支援活動に従事していました。また、自衛官の家族として災害派遣へと送り出す辛さ、留守を守る大変さも経験しています。両方の立

場を経験し、心境を察するが故に「自分にできることはないのだろうか」と暗中模索の日々を過ごしていましたが、令和四年度から予備自衛官補の技能資格に保育士が加わることを知り、迷わず志願をしました。

全十日間の教育訓練を無事に終え、予備自衛官へ任官後は、隊員の皆さんが安心して任務に集中できるように、そして、留守を守る家族の皆さんの心のケア等、これまで培ってきた自身のスキルと経験を余すことなく活かし、更なる自己研鑽を怠らず、有事の際には貢献できるように準備を続けていきたいと考えています。

予備自衛官補(システム防護)に採用されて



自衛隊東京地方協力本部
予備自衛官補
(技能・システム防護)

山崎 雅也

私は予備自衛官補の技能の区分でシステム防護の募集が始まったことを知り、私にも何かできることがあるのではないかと思います、今回志願

させていただきました。

現職では所属企業の情報セキュリティに関する日本法人の窓口として、様々なインシデントへの対応や事前にセキュリティ事故を防ぐ仕組みづくり、セキュリティコンプライアンス対応などの業務に取り組んでいます。サイバーの分野は国内で業務に従事する人員も少なく、私自身の技能が求められるレベルに達しているかは確信を持てる状況にはありませんが、今まで培ってきた広範囲にわたる基礎的な知識を応用できればと思う次第です。また、求められるレベルがわからなかったとしても、一歩踏み出せば必ず何か見えてくると思ったことも志願につながりました。

国民全体の奉仕者として、今までに培った知識を活かすとともに、その他の後方支援に取り組んでいければと思っています。教育訓練はこれからですが、志を同じくする仲間達と切磋琢磨しながら教練に取り組み、限られた時間を最大限有効活用し、練度を高めていきたいです。

雇用企業の皆様から

即応予備自衛官を雇用して



株式会社
ティー・シージャパン
代表取締役

阿部 誠

弊社は、一九七三年（昭和四十八年）大分県大分市に会社を設立し、海洋土木、一般土木、油圧ホース、電気・通信、総合保険、アパレル・飲食事業と幅広い分野で事業展開しており、社会に貢献するトータルカンパニーとして、今年創業五十年を迎えます。

日本最大級の先進的かつ最新鋭の杭打船「第八十八大栄号」と「第三十八大栄号」を所有し、『仕事は厳しく、心は豊かに』『未来をつくる、真のプロフェッショナルを目指して』をモットーに、さまざまな事業で地域・社会に貢献できる企業を目指しています。

弊社には、現在二名の即応予備自衛官が在籍しております。二名ともに、任期制自衛官を修了して「自衛隊新卒」として弊社に就職し、

入社した当初から、自衛隊時代に培われた、規律・責任感、実行力、チームワーク等の社会人としての基本的な素養が身についており、即戦力として活躍していただいています。現在は、海洋土木事業部に所属し、主に海上での基礎工事として、杭打工事を担当しております。工事は日本全国で長期にわたる事もありますが、訓練の時は、帰省の費用を会社が負担し、作業の分担など同僚の協力も得て、会社でバックアップできる体制を整えております。

年間三十日の訓練と社業の両立は、簡単なことではないと思いますが、弊社としても可能な限りバックアップし、今後も即応予備自衛官の雇用を通じて社会貢献していく所存でございます。

即応予備自衛官等を雇用して



東洋ワークセキュリティ株式会社
北東北支店長

永澤 一利

弊社は宮城県仙台市に本社を構えており、北東北支店は岩手県内に五拠点、青森県内に一拠点の営業所を展開し、施設や交通誘導、イベント等の警備業を営んでおります。

北東北支店内では現在、即応予備自衛官六名、予備自衛官一名が勤務しており、他にも多くの退職自衛官が在籍しております。

自衛隊出身者の中には営業所長クラスで活躍されている方もおり、自衛隊で培った「規律心」や「責任感」を遺憾なく発揮して頂いております。

今後皆さんには予備自衛官等として、そして警備員として、「守る」という人々に安心を提供する素晴らしい役割を全うして頂ければと存じます。

弊社は今後も即応予備自衛官を積極採用し、安心を提供して参る所存です。

ご家族の皆様から

父が予備自衛官になって



自衛隊佐賀地方協力本部
予備三等陸尉 荒川 正道
長男 荒川 正樹

私の父は、自衛官でしたが、定年退職を迎え再就職の際に、会社員と予備自衛官との両立の道を選びました。

これまでの自衛隊生活とは違いが多いであろう会社勤めになり、苦勞も多々ある中、さらに予備自衛官として年間五日間の訓練に出頭し、身体を壊さないかと、心配していました。

実際、自衛官だった頃に比べて、毎日の帰宅時間が遅くなり、休みも少なくなっていました。予備自衛官の訓練出頭は会社員としての立場から離れて、身体を動かしたり、今までの自衛隊人生を振り返ってみたりと、程よいストレス発散になっているようでした。

このように、会社員と予備自衛官との両立をこなしている父を誇りに思うとともに、応援

援しています。私も今は父と同じ自衛官という道を進んでいますが、いずれは父のように再就職先と、予備自衛官との両立が出来るように日々努力していこうと思います。

夫婦で予備自衛官



自衛隊茨城地方協力本部
予備一等陸尉 高橋 清隆
妻 予備一等陸尉 高橋 由美

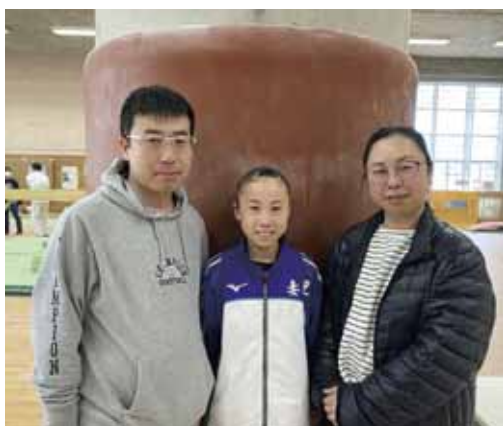
私は平成十六年七月に発生した新潟県中部地震の際に、茨城県からの要請を受けて新潟県十日町の避難所において看護師として被災者の方々のメンタルケアをしていました。

この時、同じ避難所において自衛官の方々が一生懸命入浴支援等で活動している姿を見て私もメンタルケアという立場で支援をしていましたが、もっと災害時等において人の役に立ちたいとの思いが強くなり、予備自衛官補の試験を受験して平成十七年に予備自衛官に任官しました。妻も訓練に出頭する私の姿を見て、予備自衛官補の試験を受験して平成二

十三年に予備自衛官に任官しています。

この時から夫婦共々予備自衛官となった訳ですが、私共の間には平成二十二年に長女が誕生しており、妻が予備自衛官になった当初の訓練時には子供は幼く、色々と育児に時間がとられていくなか予備自衛官訓練に参加するために、妻と私は育児のためお互いの訓練が重ならないように訓練参加日を調整して訓練に参加していたことが思い出されます。

因みに予備自衛官訓練は年間五日間とそこまで過大な日数ではないため、子育てをしつつも夫婦間で調整することにより、なんとか



訓練に参加することが出来てきました。

あれから月日が経ち、私は予備自衛官になって十七年、妻は十二年と経過しましたが、これからも人の役に立ちたいという初心を忘れない、夫婦共々予備自衛官として訓練等に励んでいきたいと思っています。

最後に妻へ、看護師という仕事をしながら家事、育児、予備自衛官の訓練等大変だったでしょう、本当に感謝しています。これからも予備自衛官の定年までお互い一緒に頑張っていきましょう。また人生のパートナーとしてこれからも末永くよろしくお願いします。

常備自衛官から

即応予備自衛官研修を通じて



第五施設団本部
陸曹長

井田 沙織

私は、第五施設団の担当者として、団として令和元年度まで志願者0と低調であった即

応予備自衛官の志願率の向上に向け、指揮官・管理者、人事担当者への制度普及・定着を図るとともに、即自の勢力確保並びに隊員指導の資を得るため、指定部隊における訓練研修を企画しました。

正直、私自身も今まで即自の方と共に訓練などを行ったことが無かったため、企画・参加する前は、即自と言われても聞いたことがあてない、というのが本音でしたが、研修を



通じて即自の方々の実際の生の声や処遇等大変貴重な意見を聴取でき、また訓練と職域・職業とのバランスのとり方などについて、とても理解することが出来ました。

そして、なにより即自の方々隊員一人ひとりの意識の高さ、部隊としての団結・規律・士気の高さに圧倒され驚きました。

今後は、担当者として誇りを持って、本研修を通じて見聞きした即自の方々の声を常備の我々に普及することに役立て、引き続き、即自・予備自の勢力確保に向け隊員達に分かり易く伝え、様々な職種部隊における研修の企画に取り組んでいきたいと思っています。

予備自衛官の大切さ



第三十三普通科連隊
陸曹長
川瀬 聡

私は現在、中隊先任上級曹長として勤務しています。令和三年三月から先任上級曹長に上番して、もうすぐ三年になるうとしています。

す。この間、定年退職者二名、任期満了退職者六名の隊員に予備自衛官として志願してもらいました。勿論、私だけでなく、連隊援護幹部及び中隊援護陸曹の親身な説明・説得により志願に結びつけることができました。

近年の日本を取り巻く安全保障環境を考えると、いつ事が起きるか分からない状況となっており、我々常備自衛官が出動した後の後方支援等任務を有する予備自衛官が不足しているのは、自衛隊としての任務遂行に影響を及ぼしかねません。

今後も退職隊員には予備自衛官の大切さを理解できるように制度説明を継続して、志願者拡大に努めていきたいと思っています。

私も令和六年度に定年を迎える予定です。もちろんその時は、予備自衛官に志願し、国民のために何か役立てたらと思います。

地方協力本部担当者から

信頼関係の醸成に努めて



自衛隊沖縄地方協力本部
陸曹長
町田 徹

私は、予備自衛官等係長として令和三年三月から業務を担当しております。当初は広範多岐にわたる規則に習熟しつつ多数の調整先を把握する事かなりの苦勞をしましたが、何とか業務にも習熟することができました。

業務上、常日頃から意識していることは、即応予備自衛官との信頼関係醸成です。招集訓練に出向き直接顔を合わせて、親身な身上把握に努め、信頼関係の醸成に努めています。また、雇用企業に対しては定期的に企業担当者等を訪問し給付金の過払い防止に努めています。近年は即応予備自衛官の志願者数が減少する中、少しでも志願者を増やせるよう、あらゆる機会を捉えた募集活動を実施しています。

もう一つの業務である予備自衛官補業務に関しては、自衛隊の事を知らない方が多数いるので、丁寧な説明を心掛け真摯に対応しつつ不安の解消に努めてきました。

定年まで残り一年ですが、最後まで予備自衛官等の皆さんに寄り添い、より良い環境醸成に努めていく所存です。

予備自衛官業務について



自衛隊山形地方協力本部
防衛事務官

湯田 誠

私は令和二年四月から、予備自衛官班長として勤務しています。着任当初は予備自衛官制度について知識がなく、手探りで業務を実施しておりました。

業務を担当し三年目となりますが、業務を通じて感じたことは、二十代から六十代まで幅広い年齢層の予備自衛官の皆さんがいらっっしゃいますが、皆さんとても若々しいということです。

年間五日間の訓練ではありますが、その訓練の中で、戦闘服に着替え体を動かし、現役時代の上司・同僚・後輩と近況を確認し合い、昔話に花を咲かせることが活力に繋がっている秘訣なのだと感じました。

また、毎年の訓練を楽しみにしている方も多く、上限年齢により退職する際は、とても名残惜しくされている姿がとても印象的でした。

担当として、一人でも多くの予備自衛官の皆さんが、「予備自衛官になって本当に良かった。」と思えるよう、予備自衛官・雇用企業・訓練担任部隊との架け橋となり、より良い出頭環境で訓練が実施できるよう、努力していきたいと思っています。

もっと知りたい即自のこと



自衛隊岩手地方協力本部
防衛事務官

神馬 朋香

私は、自衛隊岩手地方協力本部援護課予備自衛官等企画係の神馬事務官です。令和四年四月から即応予備自衛官の担当として勤務しています。

即応予備自衛官制度について、日々の業務を通じて理解しているつもりでしたが、実際に訓練を見たことも即応予備自衛官の方にお話を聞いたこともありませんでした。そこで、即応予備自衛官のことをもっと知りたいと思い、令和四年十一月十日、岩手駐屯地において第三十八普通科連隊第三中隊が実施する即応予備自衛官招集訓練を取材することにしました。

その日は、市街地での戦闘能力、変化する状況への判断能力を養う訓練が行われており、教本に書いてある基本の動きは何のために必要なのかという意味を考え、場面に応じた最



適な動きについて話し合っていました。

取材にあたり即応予備自衛官の方が、「一緒に訓練している仲間は背中を預けられる」と仰っていて熱い気持ちを感じました。また、志願した理由、やりがいなどを聞くことができ、自衛官を退官し会社に勤めながら、崇高な使命感を持って国防のために訓練に励んでいる即応予備自衛官の皆さんの姿を見て尊敬の念を抱きました。

今回の取材を通じ、即応予備自衛官の方の出頭環境をより良くするために私にはどのようなことができるかを考えるよい機会となりました。

私は、今後も自分の知識を深め、即応予備

自衛官制度について周知するために、ぜひ、「即応予備自衛官招集訓練三十日間密着取材！」をやってみたいと思っています。

取材OKの部隊がありましたらご一報ください。

一佐予備自衛官から

予備一等陸佐って、ご存じですか？



自衛隊福岡地方協力本部
予備一等陸佐

伊崎 義彦

ウクライナ戦争の状況を見るまでもなく、国家として予備の人的戦力を確保しておくことはとても重要です。私は現役時代に、北部方面混成団長として勤務し、即応予備自衛官や訓練中の予備自衛官補、訓練終了後に予備自衛官となった隊員とも話をし、彼らの熱い思いに感銘を受けていました。それに応えるべく訓練環境の改善や充足率の向上などに取り組んできました。予備自衛官制度の中で、最も新しく、令和元

年度からスタートしたのが予備一等陸佐です。通常の予備自衛官の招集訓練では、年間五日間の決められたメニューに参加します。予備一佐の招集訓練にはそのような枠組みがなく、日米共同指揮所演習などの大きな訓練の際に、司令部の幕僚補佐で入るなど、その都度訓練機会が設けられて行われることになります。

私も令和三年三月に退官した際に、予備自衛官を志願し、同年八月に採用され、一等陸佐に指定するという辞令書を受けました。その後、すぐにでも招集訓練に参加するつもりでしたが、令和四年六月にやっとその機会を設定していただきました。

第四師団の訓練検閲において、本来の編成にはない補助官部長補佐という役職を与えられ、古巣の第十六普通科連隊をはじめとする受閲部隊の行動を現地で確認しました。一年半ぶりに戦闘服に身を包み、違和感なく演習場を動き回り、隊員たちとも話をすることができました。改めて、現場での隊員一人ひとりの頑張りに頭が下がる思いでした。求められた役割は果たせたかなと思っています。

これからも有事に即応できるように心身の準備を怠らず、次の招集訓練を待ちたいと思います。

●予備自衛官等福祉支援制度をご存知ですか？

予備自衛官等福祉支援制度とは

一人一人の互いの結びつきを、より強い「きずな」に育てるために、また同胞の「喜び」や「悲しみ」を互いに分かちあうための、予備自衛官・即応予備自衛官・予備自衛官補同志による「助け合い」の制度です。
※本制度は、防衛省の要請に基づき隊友会が運営しています。



制度の特長

割安な「会費」で慶弔の給付を行います

会員本人の死亡150万円、配偶者の死亡15万円、子・父母の死亡3万円、結婚・出産祝金2万円、入院見舞金2万円。

招集訓練出頭中における災害補償

福祉支援制度に加入した場合、毎年の訓練出頭中（出頭、帰宅における移動時を含む）に発生した傷害事故に対し補償を行います。（現在加入されている傷害保険と合わせて給付されます）
※災害派遣出動中における補償にも適用されます。

「相互扶助功労金」の給付を行います

3年以上加入し脱退した場合には、加入期間に応じ「相互扶助功労金」の給付を行います。



加入資格

予備自衛官・即応予備自衛官または予備自衛官補である者。ただし、加入した後、予備自衛官・即応予備自衛官または予備自衛官補を退職した後も、満64歳に達した日後の8月31日まで継続することができます。

会費

予備自衛官・予備自衛官補... 毎月 950円
即応予備自衛官... 毎月 1,000円
※3カ月分まとめて3カ月ごとに口座振替にて徴収します。



お問い合わせ

公益社団法人 隊友会 事務局（公益課）

〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5番1号 電話03-5362-4873

予備自衛官等福祉支援制度とは

- ① この制度は、予備自衛官・即応予備自衛官または予備自衛官補本人、配偶者、子供及び父母が亡くなられた時に死亡弔慰金、本人の結婚や子供が誕生したときに祝金、そして傷病により入院（連続30日以上）したときに入院見舞金が支給されます。
- ② この制度は、招集訓練時の不慮の事故（死亡・後遺障害・入院・通院）の場合は災害補償が適用されます。
- ③ 3年以上加入し、脱退した場合には、加入期間に応じ「相互扶助功労金」が給付されます。

加入資格について

予備自衛官・即応予備自衛官または予備自衛官補である者。ただし、加入した後、予備自衛官・即応予備自衛官または予備自衛官補を退職した後も、満64歳に達した日後の8月31日まで継続することができます。

会費について

- ・予備自衛官・予備自衛官補... 毎月950円
- ・即応予備自衛官... 毎月1,000円

※3カ月分をまとめて3カ月毎に指定の口座より自動引き落としになります。

注：予備自衛官等を退職した時、制度脱退の連絡がないと、会費は引き続き引き落としになりますのでご注意ください。

■読者プレゼント（ご意見大募集）

今年で、54号となるパワーリザーブ（年1回発行）ですが、読者の皆さんからのご意見を募集し、さらにパワーアップさせていただきたいと思います。

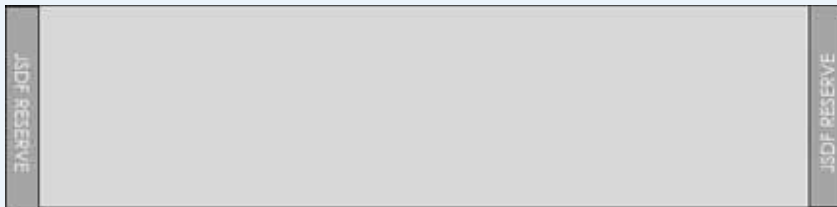
メール又は、ハガキに次の3つの質問の回答と、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、ご意見ください。

質 問

1. 本誌の記事等で関心があった（面白かった）ところ
2. 今後、記事に追加して欲しいこと
3. 本誌に対するご意見、感想など、御書き添えください。

ご意見いただいた方の中から抽選で20名様に、下記予備自衛官制度広報グッズをお送りします。

※締切 2023年10月31日まで
皆様のご意見お待ちしております！



オリジナル今治製ミニバスタオル（約34cm×110cm）
※デザインなどは変更になる場合があります

連絡先：防衛省陸上幕僚監部人事教育部人事教育計画課予備自衛官室パワーリザーブ担当者

〒162-8802 東京都新宿区市谷本村町5-1
E-mail : ppl_rp_office_g@gso.mod.go.jp



誓 宣

【予備自衛官】

私は、予備自衛官たるの責務を自覚し、常に徳操を養い、心身を鍛え、訓練招集に応じては専心訓練に励み、防衛招集、国民保護等招集及び災害招集に応じては自衛官として責務の完遂に努めることを誓います。

【即応予備自衛官】

私は、即応予備自衛官たるの責務を自覚し、常に徳操を養い、心身を鍛え、訓練招集に応じては専心訓練に励み、防衛招集、国民保護等招集、治安招集及び災害等招集に応じては自衛官として責務の完遂に努めることを誓います。

【予備自衛官補】

私は、予備自衛官補たるの責務を自覚し、常に徳操を養い、心身を鍛え、教育訓練招集に応じては専心教育訓練に励むことを誓います。

予備自衛官の歌

光かざして

作詞 太田武考
作曲 山村英雄

一、のぼる朝陽よ さわやかに

平和みなぎる 明けの空

いま現われ 山河に

若い血潮は もえあがる

ああ われら 栄えある予備自衛官

二、はずむ心よ わが友の

職場持場は わかれても

手と手をつなぐ どこまでも

固い誓いを この胸に

ああ われら 栄えある予備自衛官

三、虹のかなたよ 晴れわたる

理想をかかげて たからかに

この日本を 守ろうと

使命は重く とこしえに

ああ われら 栄えある予備自衛官



予備自衛官標旗



即応予備自衛官
シンボルマーク



予備自衛官補標旗

予備自衛官等制度ウェブサイト



スマートフォンで
いますぐアクセス



予備自衛官 🔍

即応予備自衛官 🔍

予備自衛官補 🔍



第54号